

兵庫県 の 地震 活動

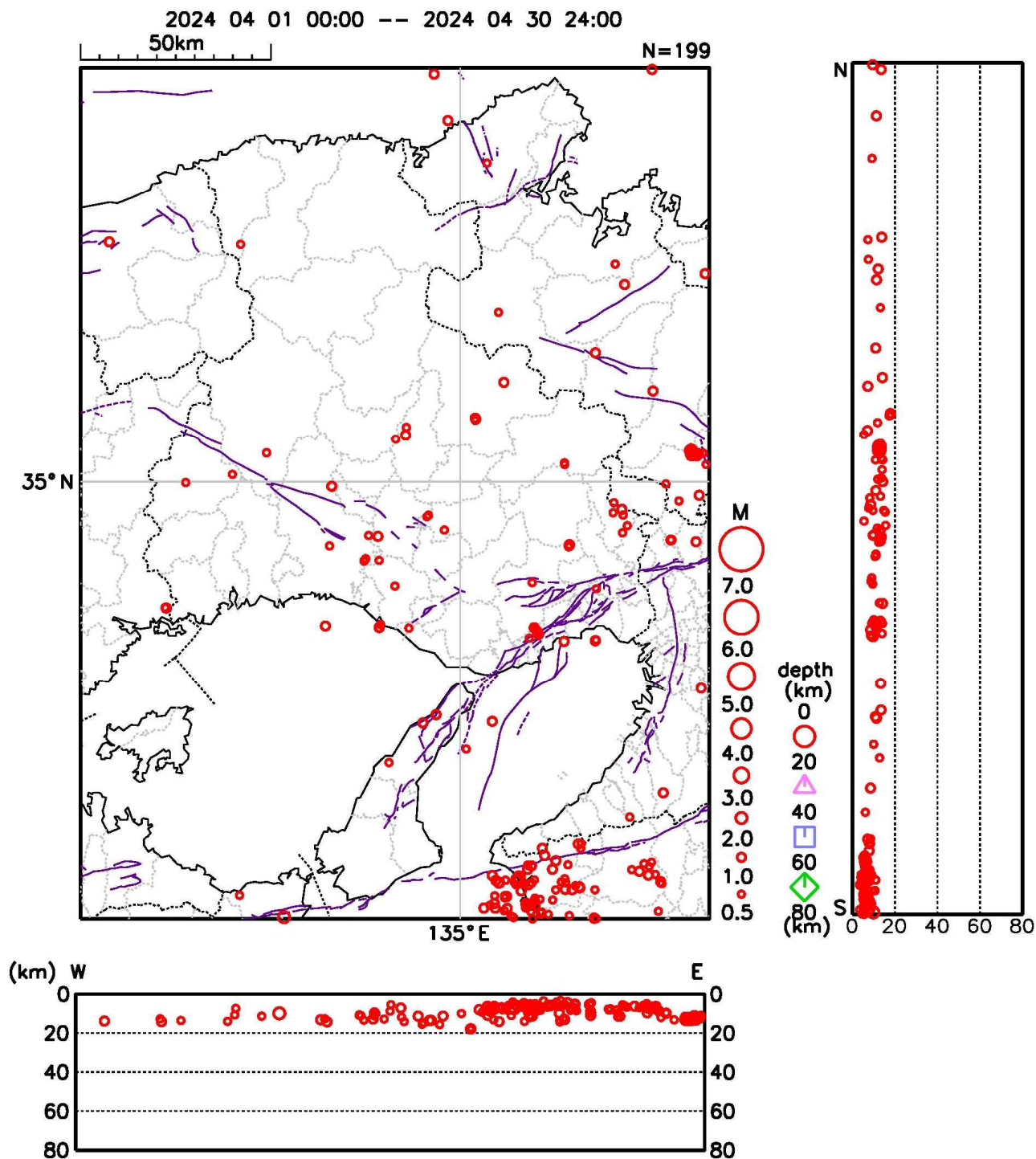
2024 年（令和 6 年） 4 月

震央分布図・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・	1
概況・・・・・・・・・・・・・・・・	2
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震一覧表・・・・・・・・	2
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図・・・・・・・・	3
一口メモ	
8 月 26 日は火山防災の日です・・・・・・・・	4

- * 「兵庫県の地震活動」は月 1 回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするとともに、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- * この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- * また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

神戸地方気象台

震央分布図・断面図



左上：震央分布図 右上：東から見た断面図 左下：南から見た断面図

注) 分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

概 況

―― 4 月の概況――
今期間、兵庫県内では震度 1 以上の地震を 1 回観測しました。
17 日 23 時 14 分 豊後水道の地震（深さ 39km、M6.6、前掲震央分布図範囲外）により、豊岡市で震度 3 を観測したほか、兵庫県内の広い範囲で震度 2 ～ 1 を観測しました。

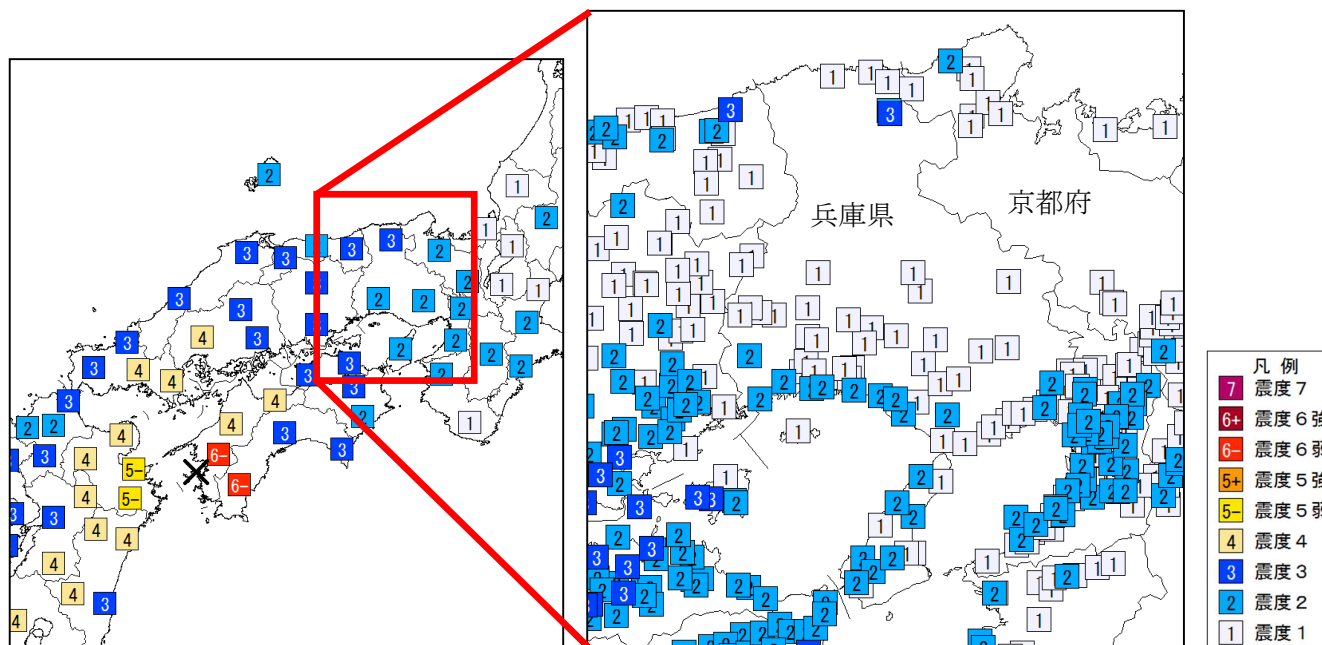
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震一覧表

地震発生日時	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード	全国最大震度
各地の震度（兵庫県内）						
4 月 17 日 23 時 14 分	豊後水道	33° 12.0'	132° 24.5'	39km	M6.6	震度 6 弱
震度 3：豊岡市桜町						
震度 2：豊岡市中央町＊,神戸西区竹の台＊,西宮市宮前町,加古川市加古川町,宝塚市東洋町＊ 高砂市荒井町＊,播磨町東本荘＊,姫路市網干＊,姫路市白浜＊,相生市旭 赤穂市加里屋＊,上郡町大持＊,たつの市御津町＊,南あわじ市福良,南あわじ市広田＊ 南あわじ市市＊,南あわじ市湊＊,淡路市富島,淡路市郡家＊,淡路市志筑＊						
震度 1：豊岡市城崎町＊,豊岡市竹野町＊,兵庫香美町香住区香住＊,神戸東灘区住吉東町＊ 神戸灘区八幡町＊,神戸兵庫区上沢通＊,神戸長田区神楽町＊,神戸垂水区王居殿＊ 神戸中央区脇浜,尼崎市昭和通＊,明石市中崎,明石市相生＊,西宮市平木＊ 芦屋市精道町＊,伊丹市千僧＊,三木市細川町,三木市福井＊,三木市吉川町＊ 川西市中央町＊,小野市王子町＊,三田市下深田,加西市北条町＊,兵庫稲美町国岡＊ 丹波篠山市北新町,多可町加美区＊,多可町中区＊,加東市社,姫路市神子岡前 姫路市安田＊,姫路市夢前町前之庄＊,姫路市香寺町中屋＊,姫路市家島町真浦＊ 姫路市本町＊,姫路市林田＊,福崎町南田原＊,兵庫太子町鵜＊,佐用町上月＊ 佐用町佐用＊,佐用町下徳久＊,佐用町三日月＊,宍粟市山崎町中広瀬,宍粟市一宮町＊ たつの市龍野町＊,たつの市新宮町＊,たつの市揖保川町＊,洲本市物部 洲本市五色町都志＊,洲本市山手＊,南あわじ市北阿万＊,淡路市久留麻＊						

震源要素は、後日修正される場合があります。確定値は「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載されます。
なお、＊印は気象庁以外の地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

兵庫県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図

4 月 17 日 23 時 14 分に発生した、豊後水道の地震による震度分布図（左図：地域震度※、右図：観測点震度）。
×印は震央を表す。



※ 地域震度：国内を 188 の地域に区分し、その地域内の震度観測点のうち最大の震度を観測した地点の震度を地域震度としています。兵庫県は、北部、南東部、南西部、淡路島の4地域に区分されています。

日本には111の活火山があり、気象庁ではこれらの活火山の火山活動を監視しています。令和5年、活動火山対策特別措置法の一部が改正され、国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、8月26日を「火山防災の日」に制定しました。今回は「火山防災の日」の紹介をします。

近年、富士山の想定される火口の範囲の拡大や、桜島で大規模噴火の可能性が指摘されたことなど、日本全国で火山活動が活発化した際の備えが急務となり、令和5年、活動火山対策特別措置法が改正されました。この改正では、火山調査研究推進本部の設置や、8月26日を「火山防災の日」と定めることなどが盛り込まれました。

8月26日は、明治44年(1911年)に日本で最初の火山観測所が浅間山に設置された日です。浅間山は、明治42年(1909年)から噴火が活発化しており、住民の不安が高まっていました。このため、長野県知事の依頼と震災予防調査会、長野測候所の協力により、観測所が設立されました。しかし、初代の観測所は冬期の観測や噴火時の安全性に問題があったため、大正12年(1923年)に南山麓に「浅間火山追分観測所」が建設されました。その後、軽井沢測候所を経て、現在は気象庁火山監視・警報センターが浅間山の観測を行っています。

噴火災害から身を守るためには、気象庁が発表する火山防災情報に基づき、噴火警戒レベルに応じた行動をとることが重要です。情報は、気象庁ホームページやテレビ、ラジオ、携帯電話、防災行政無線などで確認できます。また、火山防災マップで事前に情報を収集し、避難場所や想定される火山現象を確認しておくことも大切です。

近畿地方には活火山はありませんが、九州や関東をはじめ日本には多くの活火山があり、旅行などで訪れることがあると思います。8月26日の「火山防災の日」や9月1日の「防災の日」をきっかけに、火山防災の日特設サイトなどを見て火山への理解を深め、噴火に備えてください。



(参考)

火山防災の日特設サイト

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/kazanbosai/index.html>

火山登山者向けの情報提供ページ

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/map_0.html



特設サイト

火山情報